



2006年7月1日

通巻1043号

発行：金沢大学教職員組合執行委員会
〒920-1192 金沢市角間町
TEL076-262-6009 角間内線2105
E-MAIL kanazawa@ku-union.org



**金沢大学版
地球の歩き方**

《ちょこっと Viet Nam》

辯蔵千恵子（前附属養護学校）

アジアのエスニック・グッズのブームは去ることも無く、特にこれから季節、若い女性の人気を集め。ベトナムのアオザイやコットン素材のブラウスなど現地で、しかもオーダーメイドでも手軽に手に入れることができる。小物類は手織りや刺繡が施され優雅である。ベンタンやチョロン市場(ホーチミン市)の散策は何も買わなくてもエキサイティング！ツアーコースはいろいろ組まれ格安からそれなりのコースなど多様。テレビ取材も山岳民族を訪ねて奥地に入り、かつてのホーチミン・ルートはホーチミンサンダルに変わってスニーカーに？ベトナム戦争の街というより観光の街、経済成長めまぐるしい街と変貌した。



ハロン湾(世界遺産)



海産物を売るおばちゃん



メコンクルーズ

私の初めてのベトナム訪問は1990年である。以後「ベトちゃんドクちゃんの発達を願う会」(会長：藤本文朗氏)や日本ベトナム友好障害児教育福祉セミナーのみなさんと共に毎年ホーチミン市を訪問してきた(2002年からセミナー開催地はハノイ)。最近の訪問は2005年8月である。この15年間でホーチミン市はどうに変わったか？限られた短期間の滞在で狭い体験からではあるが私の印象をちょこっと思い出し紹介したい。

まず1990年には直行便がなく、バンコク経由で入国。それも Viet Nam Air Lineの飛行機はコックピットが覗けた！今は関西空港、成田、中部から直行便が出ている。近い、速い、安い、便数が多い。つまり簡単に行ける国となった。そういえば当時は入国ビザが必要で、税関通過は威厳的、高圧的態度におどおどさせられ、こちらの愛想笑いは全く通用しなかった。それにビデオテープ・ビデオカメラなどの機器類は極めて慎重にチェックされ、持参したプロジェクターが空港に留め置きとなつこともある。宿泊したクーロンホテル(現在のマジェスティック)はサイゴン河のほとりにあり、各国のジャーナリストがベトナム戦争時に取材拠点とした中の一つで壁には弾丸跡が残っていた。小説の中に登場してくるような建物や薄暗い路地、解放戦線の連絡場所であった秘密めいたカフェ、サイゴンはおどろおどろの雰囲気が漂っていた。以後しばらくはツーツー病院つながりで近くのゲストハウス(国営)に滞在したが、ここがすごい場所であった。旧大使館跡？ぐるりと高い塀に囲まれ、入口にはガードマンが常駐。出入り時は証明書を提示する必要があった。別棟に外国の要人が滞在したときにはパトカー先導、ガードマンは肩にライフル銃？と厳戒態勢である。フンセン大統領が来るから私たちに移動してほしいというバタバタ騒ぎもなつかしい思い出である。

今や外資系の高級ホテルやビジネスマン向けのマンションが林立し、ホーチミン市南部では振興住宅地が整備され、高級住宅が立ち並び、そこに至る高速道路は年々伸びている。乗り物は自転車・シクロからHO



統一會堂(旧大統領官邸)



障害児・者のフェスティバル

講義風景
(ホーチミン市幼児師範学校中庭)

NDAのバイク、トヨタの乗用車が走り、横断歩道・信号が増大した。'90年には怖くて簡単に道路を横断できなかった(ゆっくり同じペースで歩けば良い)。

言うまでも無くこの変貌は1986年以来の「ドイモイ(刷新)」政策による市場経済化と外国資本の導入を受け入れる政策転換したことによる。ベトナムは発展途上国としてグローバリゼーションに組み入れられ、「市場システムの推進と国家福祉の役割縮小を推進する「新自由主義」の影響」を受けていくことになる。社会主義国をめざしながらのドイモイは矛盾を孕みながら様々な制度改革・法の整備にも着手し、福祉・障害児教育の分野にも影響を与えていた。

1990年のホーチミン市初入国は「日本民話の会・御一行様」の一人としての参加である。全くこの会と関係ないよそ者だったが、著名な児童文学学者(松谷みよ子さん他)のみなさんとツーツー病院を訪問できることに舞い上がっていた。ツーツー病院はベトナム南部一の産婦人科病院で、その敷地内に枯れ葉剤被害による障害児の病棟「平和村」がある。そこに「ベトちゃんドクちゃん」(いまやベトさん、ドクさん 彼らはもう25歳)は暮らしている。二人に会ったときは分離手術の傷跡がまだ生々しく、ガーゼは赤く血がにじんでいた。枯れ葉剤被害は第3世代に及んでいる。平和村を訪れる父母の数は減らない。近年元ツーツー病院院長のフォン博士などが中心となりアメリカの製薬会社を訴える裁判を起こされたが、因果関係を証明できず敗訴に終わっていると聞いた。

ぜひリニューアルされた戦争証跡博物館で枯れ葉剤やベトナム戦争の傷跡を確かめられたい。日本語の本が販売されている(私たちの仲間の一人が書かれた)。

1975年4月30日解放軍の戦車が大統領官邸に入り、ベトナム戦争は終結した。大統領官邸はその後「統一會堂」として観光客に開放されるが、全く仰天したのは2003年11月訪問した際、この統一會堂、その場所で、障害児・者の集会が当たり前のように開催されているのを目の当たりにしたときである。日本人の私には想定外であった。官邸はみんなのものなのである。

この御一行様ツアーをきっかけに単なる観光ではなく、ベトナムの学校・先生・子ども・親など多くの友人に会うことになる。日本の支援でスタートした障害児教員養成校の会場となった美しいコロニアル風建物(ホーチミン市幼児師範学校)が、なんとあのフランス映画「ラマン」の撮影に使われていたとは! そしてその一画に障害がある子どもたちの働く場所としてカフェをオープンさせたのは、私たちの仲間の一人である。ホーチミン市に行かれた時にはぜひお立ち寄りください。姉妹校を卒業した卒業生がこのcafe「HOA ANH DAO」(さくら)(トンドクタン通りの角)であなたにおいしい飲み物を運んでくれるでしょう。

ベトナムは自由化の波と社会主義国家としての平等をいかにそれぞれ構築していくか、「2001-2010年社会経済発展戦略」(2001年)のもと各分野で取り組まれている。貧困・格差拡大・ストリートチルドレン・エイズ・売春・障害児者・・・華やかな一面と苦悩する一面をかかるベトナム。これから何処に向かうのか。見守り続けたい。



カフェ「さくら」



ホテルからの夕景はなぜか もの悲しい



夜はバイクでデート!

民族衣装を着て文化を学ぼう

村井 淳志（教育学部）

去る5月26日、大分大学の森川登美江先生をお招きして、「世界各国の民族衣装を着て文化を学ぶ会」(女性部主催)が、角間ゲストハウスで開かれました。森川先生のもともとのご専門は近代中国文学だったのですが、大分大学のアジア学開設の際、アジア文化論へと領域を広げられました。しかし抽象的な講義をしても学生たちは眠そうな顔をするばかり。そこで森川先生が思いついたアイディアが、民族衣装を着たり、民族料理を食べたりという、衣食住からアプローチするアジア学。森川先生のアジア行脚と民族衣装の収集が始まりました。



これまでに集められた衣装は百着以上にのぼるとか。先生が直接、

買い付けてきたものだけではなく、外国に行く同僚には必ず「民族衣装をおみやげに」と頼んでおくと、みなさん、快く買ってきて下さることです。三千円も出せば華やかで嵩張らず、喜んでくれることが確実なおみやげになりますから、頼まれた方も気楽だったのかも知れませんね。その森川先生のコレクションを、私たち金大の組合員が来てファッショショを楽しみながら、森川先生から、その民族衣装にまつわる逸話やお国柄などのお話しをしていただくという趣向です。



大きなスカーフがサッと巻きスカートに変身したり、同じイスラム圏でも戒律の厳しさによって女性が隠さなければならない部位に差があること、中央アジアのきびしい風土によく合致した風通しのよい、緩やかな衣装など、さまざまな民族衣装が次々に登場する旅、加えられる解説に、一同、なるほどとうなずいていました。



女性のボディラインを美しく、という点ではやはり、ベトナムのアオザイがすばらしかったです。意外だったのは、アオザイが昔からの民族衣装ではなく、フランス統治下でデザイナーがチャイナドレスからヒントを経て発明した20世紀の産物であるということ。しかしあまりに深いスリットのため、モデルの先生がスラックスの上から着ておられたのが、惜しかった！？ 我々男性教員が、中国士大夫の衣装で登場したのはご愛敬でした。

外国语教育研究センターの矢淵先生差し入れの人参茶や森川先生のおみやげのジャスミンティーを飲みながらいただいた金沢の和菓子も、とてもおいしかったです。



あすかめの♪

ちょっといいはな店

洋食屋「たぬき」
Grill New TANUKI
電話 076-262-6658

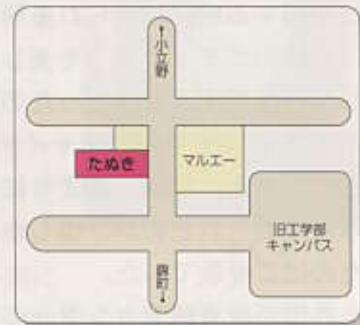
村田 晶 (工学部)

工学部が小立野キャンパスから角間キャンパスに移動し、自分の居室も段ボール開梱が終わりやっとこちらでの生活にも慣れてきた頃…執筆依頼が舞い込んできました。折角の機会、工学部教員の端くれとして今まで散々お世話になった小立野キャンパス周辺のお店を紹介するべきだろう、と思い至りました。ということで、今回は洋食屋「たぬき」を紹介いたします。

洋食屋「たぬき」は15、6年くらい前に大学病院周辺からここ小立野キャンパスの近くに移転してきたとのこと、ちょうど私がここ金沢に学生として来た時期と一致します。洒落た洋食屋さんは大学周辺ではなく、金沢でも数えるくらいしかありませんでしたから、学生時代から今までちょっと贅沢したいときや、お客様とのちょっとした会食、大学時代の同期や先輩・後輩が遊びに来たとき、…様々なシチュエーションに利用できる、「使える」お店ですね。

つまらない私事はさておき、お店の紹介をいたします。たぬきの石像が飾ってある玄関を入ると、オープンキッチン形式の店内にはカウンター10数席と綺麗な庭の見えるテーブル席がありますが、お昼時だと平日でも満席となるときもあります。料理は名物のやきめしやハヤシライスを始め、あらゆる洋食が揃っております、どれも非常に美味しいです。ただ、私は「たぬき定食（現在は950円）」を注文することが多いですね。日替わりの料理2品と自家製ドレッシング（これがまた美味しい！）がかかったサラダ、麦の入った健康的なご飯（お代わり自由）とみそ汁でお腹も心も満足できます。

最後にちょっとした情報を…4人前以上であれば、角間キャンパスまで出前してくれます。工学部分会の委員会での弁当はここにお願いしています。角間まで出前可能のお店も少ないのでし、機会があればご利用なさるのはいかがでしょうか。



金沢市小立野3-27-12 (マルエー小立野店向かい) TEL: 067-262-6658
営業時間: 11:00~15:00 / 17:00~21:30 定休日: 毎週火曜日・第3月曜日

○○○編集後記○○○

「ゆにゆに」1043号をお届けします。観光スポットとして今人気のベトナムー私もいってみたい国の一ですが、華やかな開放政策の陰にある、ベトナム戦争の後遺症など、考えさせられることの多い旅行記をいただきました。こうした影に出くわすのも、旅の働きの一つかもしれません。百聞は一見に如かずといいますが、民族衣装の中に込められた、それぞれの土地の風俗や文化の情報の、生体験も貴重でした。こうした教養啓発活動にも力を入れていきます。

(編集者/M・I)